140周年特集

創立140周年記念招待試合
vs秋田商

3年ぶりに野球の交流戦 好プレーにスタンド沸く

母校の創立１４０周年記念事業の一環として、４月24日秋田市の八橋運動公園で、秋田商業高校との硬式野球とサッカーの招待試合が行われた。

野球の現役の試合に先立ち、サッカー部の選手たちも加わって開会式が行われた。全校応援の両校の校歌の斉唱は圧巻だった。そして、高橋貢校長、佐々木捷生徒会長の挨拶があり、その後、秋田商業の代表に感謝の気持ちを込めた記念品の目録が贈呈された。

野球はＯＢと現役の２試合、サッカーは現役同士の１試合を行った。

開会式で高橋貢校長が挨拶の中で触れたが、両校は大正時代から野球の定期戦を行ってきた。昭和59年を最後に途絶えていたが、３年前の秋田商業創立90周年の時に復活。今回は２度目の開催となった。

ＯＢ戦では、昭和40年代前半卒から平成25年卒まで幅広い年齢層の選手たちが往年を彷彿させる好プレーを見せ、スタンドを沸かせた。試合は後半母校が逆転し、10対９で勝利を飾った。

現役の試合は雨の降る中行われたが、両校ともきびきびとしたプレーの連続で好試合となった。結果は母校が逆転で４対１で勝利した。

野球の試合としては時期的にだいぶ早い開催であったが、両校とも夏に向けて好感触を得た試合であった。

OB・現役戦とも秋高の逆転勝利

秋商選手を両側からチェックする秋高イレブン（白）

サッカー現役戦には 全校応援の熱いエール

サッカーの試合会場は八橋球場に隣接する秋田市営陸上競技場。時折雨のぱらつく空模様のなか、両チームは秋田商業が赤、秋高は白のユニフォームに身を包んで交流試合に臨んだ。

前半、秋高は２年生キーパーの再三にわたるファインセーブでゴールを死守したが、抗しきれずに先制点を許し０対１で折り返した。

後半に入っても運動量の豊富な秋田商業に対して秋高イレブンには疲れが見えだし、足が止まったところを立て続けにゴールを決められて、結局０対４のスコアで強豪秋田商業に敗れた。

しかし、秋高スタンドは全校あげての大応援。応援団の指揮のもと、生徒たちはチャンスやピンチが訪れるたびに紫色のメガホンを口元に当てて声を限りに「秋高ダイナマイト！」の熱いエールを送り続けた。

スクールカラーの紫色が曇り空によく映え、心を一つにして懸命に応援する秋高生の姿は、秋田商業の真紅の応援団に勝るとも劣らない迫力であった。

「秋高ダイナマイト！」パワー全開の全校応援

設楽産婦人科内科 したらクリニック
院長
設　楽　芳　宏
（昭和46年卒）
秋田市外旭川字前谷地43番1
TEL　018-816-0311
FAX　018-816-0312

福田胃腸科クリニック
院長
福　田　　健
内　科・消化器内科
外　科・乳腺外科
秋田市広面字家ノ下34－1
TEL　018-832-3535

人類は森から生まれた
「街に森を、緑を」
植樹ボランティア
グループ「森」
会長・川上茂樹（昭和45年卒）
石澤千秋（昭和46年卒）
林　康夫（昭和47年卒）
藤原彰人（昭和47年卒）
《事務局》018-828-3033

本間医院
院長
本　間　真紀子
（昭和46年卒）
秋田市山王中園町３－14
（中園町バス停前）
TEL 018（862）7070